

## 県産材製材品の表面線量調査の結果について

### 1 目的

県内の製材工場において、製材品の表面放射線量を定期的に測定し、現在出荷されている県産材の安全を確認する。

### 2 調査時期 平成25年8月28日～平成25年10月30日

### 3 調査事業者数

対象工場聞き取り調査の結果、現在県産材を製材、出荷している134事業者について調査した。

### 4 調査方法（製材品の表面線量調査）

各調査工場の出荷製品について、柱、梁、板材等、品目毎に3検体以上を抽出し、製材品の表面線量（単位cpm）を測定した。

#### 【調査事業者の内訳】

区分	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	合計
事業者数	21	33	22	13	11	9	25	134
検体数(本)	203	253	195	108	66	47	252	1,124

### 5 調査結果

現在県産材が出荷されている134工場における表面線量調査の結果、表面線量の最大値は25cpm（0.001 $\mu$ Sv/h\*に相当）であった。

25cpmの測定値について、放射線防護に詳しい、国立大学法人長崎大学 松田尚樹教授及び独立行政法人放射線医学総合研究所 緊急被ばく医療研究センター 高田主任研究員に確認したところ、環境や健康への影響はないとの評価が得られた。

※参考	震災前の福島市の空間線量	(H22.2.16)	0.04 $\mu$ Sv/h
	東京都新宿区における空間線量	(H25.10.30)	0.036 $\mu$ SV/h

#### 【調査結果内訳】

区分	表面線量 (cpm)				合計
	未検出	～20	～40	40以上	
工場数	49	79	6	0	134
検体数(本)	848	269	7	0	1,124

最大値 : 25cpm
最小値 : 0cpm
平均値 : 2cpm

## 6 現在までの調査結果について

平成23年12月、平成24年3月、6月、9月、12月、平成25年3月、6月に調査を実施した。(計7回)

区分	調査時期	工場数	検体数	表面線量の最大値 (cpm)	備考
第1回	H23.11.10 ~12.7	31	544	50	県内の主要な工場について実施した。
第2回	H24.1.25 ~3.8	49	321	92	線量の高い県北、相双、県中の一部地域において稼働している全ての工場を実施した。
第3回	H24.6.4 ~7.24	135	1,058	61	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第4回	H24.9.3 ~11.6	156	1,224	51	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第5回	H24.11.22 ~H25.2.4	135	1,177	31	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第6回	H25.3.1~ H25.5.31	121	1,076	35	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第7回	H25.5.27~ H25.7.19	153	1,301	24	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
今回調査	H25.8.28~ H25.10.30	134	1,124	25	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。

## 7 今後の対応

今回と同様の調査を定期的(3ヶ月に1回)に行い、製材品の安全を確認する。

### <参考>

cpm(測定値)から $\mu\text{Sv/h}$ への換算表

計測器の指示値 (バックグラウンドを差し引いた値)(cpm)	$\mu\text{Sv/h}$
100	0.0033

独立行政法人：産業技術総合研究所作成

※詳細については下記URLを参照してください。

[http://www.aist.go.jp/aist\\_j/rad-accur/pdf/case\\_study\\_1\\_table\\_j.pdf](http://www.aist.go.jp/aist_j/rad-accur/pdf/case_study_1_table_j.pdf)